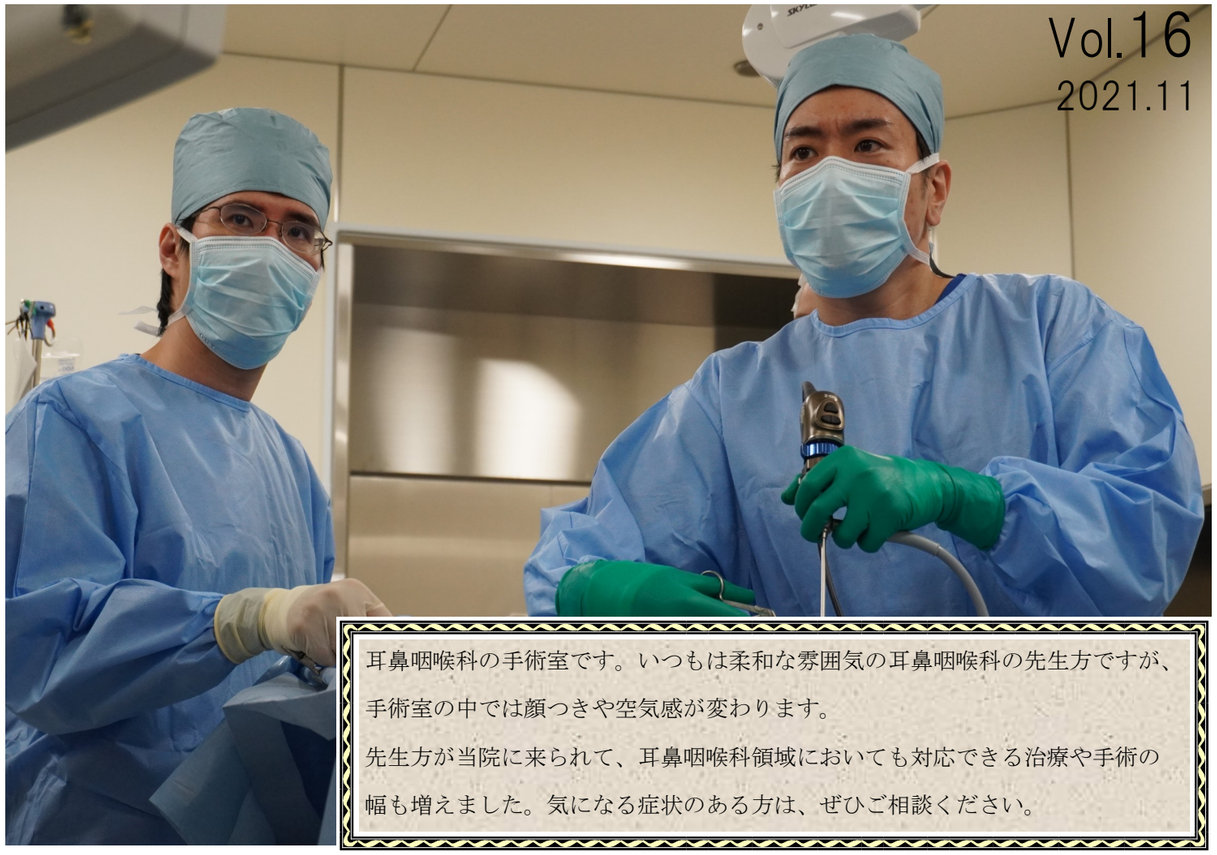
ご自由にお持ちください

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 秦野赤十字病院

ぴーなっつうしん

Vol.16
2021.11



耳鼻咽喉科の手術室です。いつもは柔和な雰囲気の耳鼻咽喉科の先生方ですが、手術室の中では顔つきや空気感が変わります。
先生方が当院に来られて、耳鼻咽喉科領域においても対応できる治療や手術の幅も増えました。気になる症状のある方は、ぜひご相談ください。

知っておきたい医療の知識　**「耳鼻咽喉科の「はな」のお話」**

認定看護師から学ぶ　**「摂食・嚥下障害看護認定看護師」**

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲良し・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域の皆さんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

ＱＲコードを読み取ると、当院ホームページへアクセスでき、最新のお知らせをご確認いただけます。

赤十字の歴史や日本赤十字社の所蔵史料を紹介する新ウェブサイト「赤十字WEBミュージアム」をオープンいたしました。赤十字創設以来の「救いたい」という「こころの灯」を受け継ぐインターネット上の"博物館"です。赤十字情報プラザ（本社1階）に来館せずとも所蔵品を見ることが可能になりましたので、ぜひご覧ください。

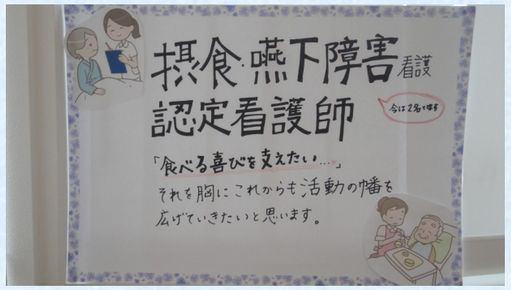
認定看護師から学ぶ

「食べる」ことのサポーター
摂食・嚥下障害看護認定看護師

普段行っている『食べること』が突然できなくなってしまったらどうしますか。一般的には、食べられないストレスや不安、恐怖を抱くかと思います。食べられない理由は人それぞれであり生きてきた環境にも左右されやすいので、食事に対する価値観が異なると考えます。しかし栄養を摂る目的で食事をすることは共通点であり、生きていく上で不可欠となります。そして、最後まで口から食べることを諦めたくないと願う方は多いのではないでしょうか。

そこで、食べる上で問題となる部分を見つけ、安全に安心して食事が継続できるように支援する役割を担っているのが『摂食・嚥下障害看護認定看護師』になります。

食事に関する問題の原因は幅広く、肺炎・脳卒中・認知症といった疾患をはじめ、加齢や精神的な変化で食事を継続することが難しい方々を支援しています。主な介入方法は、大きく分けると4つあります。

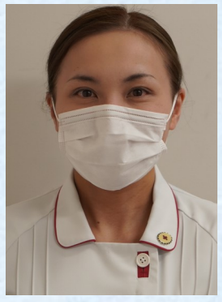


①唇や口の中のトラブルを解決するための口腔ケア支援
②食べるために必要な筋肉や問題となる部位（舌や唇の動きなど）へ働きかけるための体操の提案や実施
③口から食べることが難しい方への支援（経管栄養、胃瘻管理など）
④食欲低下などが原因で十分な栄養が摂れない方への支援

となります。

主に入院している方に関わってはいますが、退院後も見据えて地域で穏やかな日々を送っていただけるように寄り添うケアを心がけて認定看護師としてあらゆる場面で役割を果たしています。口から食べることだけがゴールではなく、今できることを一緒に見つけ出し継続していくことで新しい人生が歩みだせるお手伝いをこれからも出来たらと考えております。

私たちの活動は、医師や栄養士、病棟看護師など沢山の方々の協力も必要です。病院のあらゆる職種と支え合い、患者さんと家族、地域の方々との『出愛（出会い）』を大切に『食べる、食べない事でのリスク』を抑えながらその人に合った支援を続けていきたいと思います。



摂食・嚥下障害看護認定看護師
６階西病棟　坂本　和

摂食・嚥下障害看護認定看護師
４階東病棟　竹内　悦子

知っておきたい医療の知識

耳鼻咽喉科の「はな」のお話

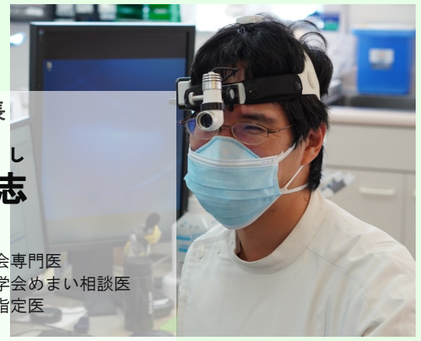
今月号の

秦野日赤人

耳鼻咽喉科医師

おのせ　よしひで
小野瀬　好英

〈資格・所属学会〉
緩和ケア研修会
（聖マリアンナ医科大学）修了



耳鼻咽喉科部長

みかみ　こうし
三上　公志

〈資格・所属学会〉
日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本めまい平衡医学会めまい相談医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医
緩和ケア研修会
（聖マリアンナ医科大学）修了

- **最近においが弱く感じる。**
- **近くでないとにおいがわからない。**
- **どれも同じにおいに感じてしまう。**
- **わかるにおいとわからないにおいがある。**
- **同じもののはずなのにいままでとにおいが違っている。**

こんな症状に心当たりがある方はにおいの障害がある可能性があります。

新型コロナウイルス感染により、においや味がわからなくなることが知られています。それぞれ、嗅覚障害・味覚障害と呼ばれ、新型コロナウイルス感染後の後遺症により長い期間悩まれる方がいらっしゃいます。新型コロナウイルス感染による嗅覚障害の原因は、通常のウイルス性感冒と同様に、鼻粘膜の浮腫、鼻汁といった鼻炎症状により匂いを感知する嗅細胞まで匂い物質が到達できないことが原因の可能性、ウイルスによる直接的な神経の障害の可能性や嗅神経周辺にある細胞等への障害により、嗅神経の機能が阻害されている可能性が指摘されています。

嗅覚障害になった場合に どのようにしたらよいでしょうか。

自然に改善することも多いため、新型コロナ感染症を拡散させないためにも症状が出てから2週間以降に受診するのがよいとされています。

新型コロナウイルス感染による嗅覚障害の新しい治療法はまだ見つかっておらず、従来行われている治療が中心となります。具体的にはステロイド剤の点鼻薬、ビタミン剤、漢方薬、亜鉛製剤、嗅覚トレーニングなどです。もちろん、嗅覚障害の中には新型コロナウイルス感染以外が原因となることもあるため、それらの治療や手術が必要になることがあります。

新型コロナウイルス感染以外の原因として、①副鼻腔炎（いわゆる蓄膿症）②感冒後③頭部外傷後④アレルギー性鼻炎　の順に多いと言われています。

嗅覚障害の中で最も多いとされる副鼻腔炎は、副鼻腔の炎症により鼻閉・鼻漏・後鼻漏・などの鼻症状に加えて嗅覚障害・頭痛・頭重感などを伴います。前述した、副鼻腔ＣＴ検査や鼻腔ファイバースコープ検査などで診断し、初期治療としては抗菌薬を含めた内服治療を行います。鼻茸といわれる鼻のポリープを伴う場合は点鼻薬を併用することもあります。治療によって改善が認められない場合は、硬性内視鏡での鼻内手術を行います。

今年度より導入された耳鼻科ナビゲーションシステム。内視鏡画像に加えて、ＣＴ画像による状況把握もリアルタイムで可能となり、手術をより安全・確実に行うことができます。

新たな体制

２０２１年４月より耳鼻咽喉科常勤医師２名体制となり、今まで以上に様々な手術に対応できるようになっております。

中耳炎や鼻閉・副鼻腔炎に対する手術、声帯ポリープに対する音声改善手術、習慣性扁桃炎の手術、甲状腺腫瘍や耳下腺腫瘍などの頭頸部手術と幅広く行っております。また、術前に撮影したＣＴ画像を取り込むことで、手術中に操作している場所がリアルタイムにわかるナビゲーションシステムを今年より導入し、より安全な副鼻腔の手術が可能となりました。さらに、一部ではありますが、鼻閉の手術を局所麻酔下に日帰り手術で行っております。

鼻閉や嗅覚障害で悩んでいる方に少しでも手助けが出来ればと考えておりますので、ぜひご相談ください。

どんな検査を行いますか？

静脈性嗅覚検査（アリナミンテスト）：肘の静脈から薬剤を注射し、その注射薬が持つにおいが静脈から肺を通って吐く息の中に含まれ、それを鼻の後ろから感じるかどうかを調べる検査です。

全くにおいがわからない方でもこの検査で反応があった場合には、治療により嗅覚の改善を認めることが多いため、嗅覚障害の改善率・予後判定に有用な検査です。

副鼻腔ＣＴ検査：副鼻腔炎や鼻中隔弯曲症があるか、嗅裂という嗅粘膜が分布する場所の形がおかしくないかなどを調べるために行います。

鼻腔ファイバースコープ検査：細い軟性内視鏡を使って実際に鼻の中を診て、嗅粘膜の状態を確認します。

血液検査：血液中の好酸球の割合、アレルギーの有無、亜鉛の濃度などを調べるために行います。